

平成26年度学校評価（自己評価）公表について

1. 学校評価（自己評価）の実施方法

本校におきましては、本年度も学校評価（自己評価）を実施いたしました。評価の実施に関しましては、文部科学省が定める「〈改訂〉学校評価ガイドライン」に従い、以下のような手順で行いました。

評価手法：教職員による自己評価（教職員へのアンケート形式で実施）

評価対象期間：平成26年度（年間を通しての評価）

評価実施時期：平成27年1月

評価対象学校：東山中学校、東山高等学校

評価実施者：専任教職員全員

評価項目：年度における「重点取り組み計画や目標（非公開）」を設定し、それに対する活動結果を「①学校運営」、「②教育内容」、「③生徒指導・支援」、「④教職員研修・資質向上」という、4つの項目から評価を実施

評価基準：A：よくできている B：できている C：あまりできていない D：全くできていない

評価結果の活用等：評価結果については定量的に分析を行うと共に、取り組むべき課題等を明確化し、今後、さらに理想的な学校づくりのために活用をいたします。なお、この評価結果は、理事長（学校設置者）をはじめ、本校の全教職員に、報告・フィードバックを行い情報ならびに認識の共有をはかりました。

2. 学校評価（自己評価）の概略について

中学校

1) 平成26年度の活動結果（総括）報告

平成26年度の重点取り組み目標（重点テーマの4項目）に対しては、概ね、良好な実施内容と結果が得られたものと思われる。傾向的には、回答率の昨年度対比で、A(+1.8%)、B(+0.1%)、C(-1.5%)、D(-0.4%)の結果であった。全体的には「昨年度対比で着実な改善」が見られた。特に、Aの増加、C及びDの減少は明らかな改善を示すものとして評価できる。ただし、C及びDについては、未だ3割弱程度の比率が残っていることも事実であるため、今後も、これらの課題に対して積極的に向き合い対処しつつ、より高いレベルの学校づくりを推進してゆきたい。

2) 具体的な評価項目における評価結果

① 学校運営

学校運営全般については、概ね「問題なく運営ができています」という評価結果であった。ただし、特に、教員と事務職員との連携、地域交流などについては、未だ、課題を残す形となった。

② 教育内容

教育内容全般については、概ね「問題なく実施ができています」という評価結果であった。環境教育、健康食育、ボランティア、社会理解に関する指導等に関しては未だ不十分な印象もあり、課題を残す形となった。

③ 生徒指導・支援

生徒指導・支援全般については、高いレベルで「問題なく実施ができています」という評価結果であった。全ての項目において、A又はBが圧倒的に多く、比較的高い評価が多かった。

④ 教職員研修・資質向上

教職員研修・資質向上全般については、「かろうじて問題なく実施ができています」という少々厳しい評価結果であった。特に、校外研修、研修成果の共有、初任者のサポート状況、自己研鑽等は、それぞれ課題を残す結果となった。

3) 今年度の反省と次年度に向けた改善の方向性

今年度の反省については上述の「所見」のとおりである。翌年度に関しては、今年度において明確になった課題に対して、実際の改善に向けた具体的な取り組みを促してゆきたい。なお、翌年度の重点取り組み目標(重点テーマ)は、もともと当校ではこれらのテーマを中長期的な取り組みテーマとして位置づけているため、今年度と同じテーマを掲げて、その完成度をより一層「高める」ことを目標としたい。

高等学校

1) 平成26年度の活動結果(総括)報告

平成26年度の重点取り組み目標(重点テーマの4項目)に対しては、概ね、良好な実施内容と結果が得られたものと思われる。傾向的には、昨年度対比で、Aの回答率(+3.1%)は増加、Bの回答率(-2.6%)は減少、Cの回答率は減少(-1.4%)、Dの回答率は微増(+0.9%)した。概ね、全体的には「昨年度対比で一定の改善」が見られたと思われるが、Dの回答率の増加傾向には引き続き注意を要する。したがって、今後も、これらの課題に対して積極的に向き合い対処しつつ、より高いレベルの学校づくりを推進してゆきたい。

2) 具体的な評価項目における評価結果

① 学校運営

学校運営全般については、概ね「問題なく運営ができています」という評価結果であった。ただし、特に、教員と事務職員の連携、地域交流、組織運営などの項目については、未だ課題を残す形となった。

② 教育内容

教育内容全般については、概ね「問題なく実施ができています」という評価結果であった。ただし、環境教育、健康食育、ボランティア、国際理解などに関しては未だ不十分な印象もあり、課題を残す形となった。

③ 生徒指導・支援

生徒指導・支援全般については、高いレベルで「問題なく実施ができています」という評価結果であった。全ての項目において、A又はBが圧倒的に多く、比較的高い評価が多かった。

④ 教職員研修・資質向上

教職員研修・資質向上全般については、「かろうじて問題なく実施ができています」という、少々厳しい評価結果であった。ただし、教職員研修、資質向上に関する各項目については、未だ、それぞれの課題を残す結果となった。

3) 今年度の反省と次年度に向けた改善の方向性

今年度の反省については上述の「所見」のとおりである。翌年度に関しては、今年度において明確になった課題に対して、実際の改善に向けた具体的な取り組みを促してゆきたい。なお、翌年度の重点取り組み目標(重点テーマ)は、もともと当校ではこれらのテーマを中長期的な取り組みテーマとして位置づけているため、今年度と同じテーマを掲げて、その完成度をより一層「高める」ことを目標としたい。

事務局

1) 平成26年度の活動結果(総括)報告

事務局における平成26年度の重点取り組み目標(重点テーマの4項目)に対しては、概ね、妥当な実施内容と結果が得られたものと思われる。傾向的には、回答率の昨年度対比で、A(-6.4%)、B(+4.1%)、C(+3.9%)、D(-1.7%)の結果であった。全体的には「昨年度対比でほぼ同様の傾向」が見られた。しかしながら、Aの減少傾向、Cの増加傾向については、何らかの改善検討の必要性を示すものとして認識しなければならない。それゆえ、今後も、これらの

課題に対して積極的に向き合い対処しつつ、より高いレベルの学校づくりを推進してゆきたい。

2) 具体的な評価項目における評価結果

① 学校運営

学校運営全般については、概ね「問題なく運営ができています」という評価結果であった。ただし、特に、建学の精神、地域交流、組織運営等については、未だ、課題を残す形となった。

② 教育内容

教育内容全般については、概ね「問題なく実施ができています」という評価結果であった。環境教育、ボランティア、国際理解等に関しては未だ不十分な印象もあり、課題を残す形となった。

③ 生徒指導・支援

生徒指導・支援全般については、高いレベルで「問題なく実施ができています」という評価結果であった。全ての項目において、A又はBが圧倒的に多く、しかもDの回答は皆無であり、かなり良い評価傾向であった。

④ 教職員研修・資質向上

教職員研修・資質向上全般については、「かろうじて問題なく実施ができています」という少々厳しい評価結果であった。特に、校外研修、研修成果の共有、初任者のサポート状況、教職員の状況把握等は、それぞれ課題を残す結果となった。

3) 今年度の反省と次年度に向けた改善の方向性

今年度の反省については上述の「所見」のとおりである。翌年度に関しては、今年度において明確になった課題に対して、実際の改善に向けた具体的な取り組みを促してゆきたい。なお、翌年度の重点取り組み目標(重点テーマ)は、もともと当校ではこれらのテーマを中長期的な取り組みテーマとして位置づけているため、今年度と同じテーマを掲げて、その完成度をより一層「高める」ことを目標としたい。

以上